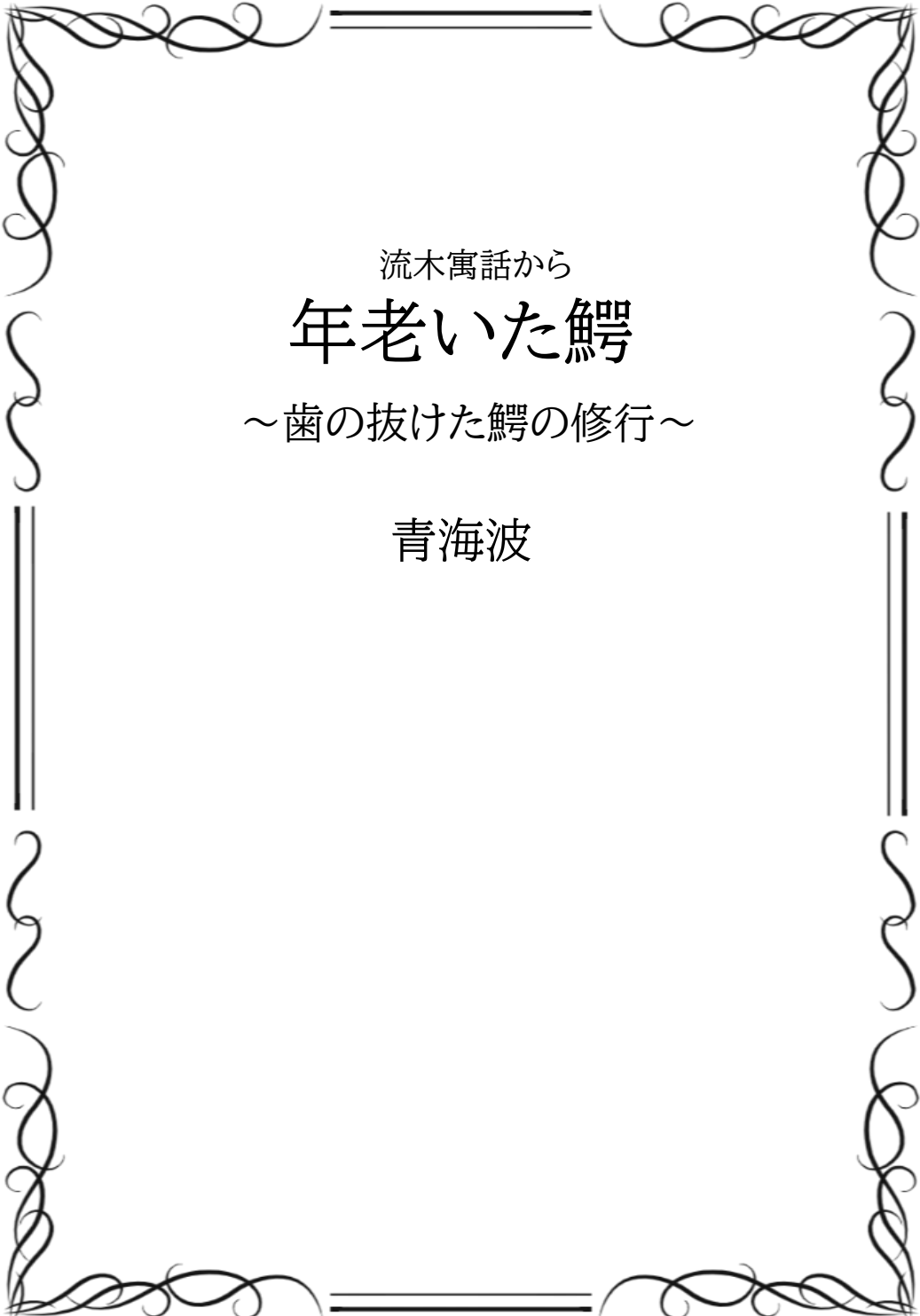




流木寓話から

年老いた鰐

～歯の抜けた鰐の修行～

青海波

I

足もとに鰐がいた。

鰐は大きく口を開き、見上げていた。

流木の鰐だ。

幹は二股に分かれ、はっきりとした目、その先に鼻が伸びている。

口の中には一本だけ歯が残っていた。

まごうことなき鰐だった。

造形は、まず目元をメイクアップ。

口の中は、大切な歯を守るため、

サンドペーパーで丁寧な「歯磨き」をした。

とぼけたような顔には、

なんとも言えない愛嬌がある。

よく見ると、漂流した身体の

そこかしこに傷跡がある。

鰐も、苦労が多かったのだろう。

愛おしい感情も湧いてきた。

よく晴れた冬の日、

海辺の湿地に連れ出して、

ハマボウの木に登らせた。

気持ち良さそうに「日向ボッコひなた」をする姿は、
これまた愛らしかった。

II

祖母、しかさんは、若くして二人の幼子おきなごを抱え
シングルマザー（夫と死別）となった。

働き尽くして、

命を尽くして、

役割を果たし、

九十歳きゅうじゅうをすぎたところから、

「指定席のような場所」で過ごしていた。

夏の日には、長屋の日陰ひかげに腰を下ろし、

海風に涼んでいた。

冬の日には、居宅玄関の日溜まりに座り、
陽光を浴びていた。

その視線は何を見て来たのか、

心は何を思ってたのか、

語ることはなかった。

その姿は、光と風を得て一つになり、

自然に還る「修行をする人」に見えた。

しかさんは、

今、光や風とともにある。

III

玄冬ふゆの日に、

鰐わには、いつもの場所にいた。

口を大きく開き、陽光ひを浴びている。

命を養ってきた歯は一本だけになった。

鰐は、陽光を浴びる日々を修行とよんだ。

いつしか光は身体に入り、

光が身体の中を通り抜けた。

朱夏の日に、

鰐はいつもの場所にいた。

口を大きく開き、風に吹かれている。

命をつないできた歯は全て抜けた。

鰐は風に吹かれる日々を修行とよんだ。

いつしか風は身体に入り、

風が身体の中を通り抜けた。

鰐は修行を遂げた。

色不異空 空不異色

鰐即是光 風即是鰐

と唱え、光陰に帰した。

了

流木寓話から 年老いた鰐 ～歯の抜けた鰐の修行～

2024 年 10 月 26 日 発行

著者 青海波

令和 6 年度 函南町立図書館 8 月～11 月 Y A 展示・企画冊子
編集・製本・発行 函南町教育委員会生涯学習課（函南町立図書館）
電話番号 055-979-8700
住所 419-0122 静岡県田方郡函南町上沢 107 番地の 1

当作品について転載・複製・複写・翻訳を著作者の許可なしに行うことを固く禁じます。
（著作権法上での例外を除く。）また、個人や家庭内の利用であっても、代行業者等の
第三者に依頼して無断でスキャン及びデジタル化することはできません。
作品の著作権は著作者に帰属しますが、函南町立図書館は作品を永続的に無償で使える
ものとします（主に公開にあたっての編集、印刷、配布、掲載に関すること）。
ただし、当館は著作者の創作性を重視し、作品内容には関与しないものとします。
また、すべての文章は原文のままとし、当館で校正・校閲作業は行っておりません。

足もとに見つけた流木、
それはまごうごとのない
「鰐」だった。

一本だけ残っている歯、
漂流で苦勞したのであろう
身体は、「年老いた鰐」の
姿だった。

流木の造形から生まれた
物語を詩のように語る。

